

令和7年度 熊本市 英語教育改善プラン

授業中、児童による言語活動を行っている割合が上昇するよう言語活動の充実を図る

○授業において、50％以上の時間、児童による言語活動を行っている学校が、95％以上となることが目標
(R5: 5年生88% 6年生89% ⇒ R7: 5年生95% 6年生95%)

目標

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①小学校5、6年生ともに、授業中、50％以上の時間、言語活動を行っている。

(R5:5年88%⇒ R7:95%)
(R5:6年89%⇒ R7:95%)

未だ改善が必要な点

①CAN-DOリスト形式での学習到達目標の公表状況について、7割程度にとどまっている。

<公表状況>
R5:69.6%⇒R7:100%

2. 要因分析

①言語活動の充実に向けた各種研修会（ブラッシュアップセミナー、外国語専科教員研修会等）の継続的实施による効果と考える。

①CAN-DOリストの有用性及び活用方法について各学校の理解が十分ではなかった。

3. 目標を達成するための施策・事業

①外国語教育に関する研修会の実施

- ・小学校教員を対象としたブラッシュアップセミナー研修会
- ・教育センターによる授業づくり支援事業（学校訪問、ステップアップサポーターによる支援など）
- ・研究員活動の成果を学校への情報提供
- ・授業改善にむけたALT対象の研修の実施

①ALTの活用

- ・授業でのALTの活用の促進
- ・ALTを活用したスピーキングテストや交流会の実施
- ・長期休暇における英語で交流する体験的学習の実施（Jump High！～ALTとオンラインで話そう！～）

①各種研修の実施

- ・ブラッシュアップセミナー、外国語専科研修会実施
→CAN-DOリストの有用性及び活用方法を周知
→好事例を共有
- ・CAN-DOリストの作成及び見直し等、学校の取組を支援

※教員採用試験において、一定の英語力を有する教員の採用を増やすために、今年度も引き続き、加点対象とする。

令和7年度 熊本市 英語教育改善プラン

目標

「授業中、生徒の言語活動の割合が50%以上行われている」の割合を上昇させる

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を習得または有すると思われる生徒の割合 (R6: 40.3% ⇒ R7: 60%)

○授業中、50%以上の時間、生徒による言語活動を行っている学校が、70%以上となることが目標 (R6: 63.0% ⇒ R7: 70%)

■ 言語活動 □ 指導と評価の一体化 □ 教師の英語力・指導力 □ 校種間連携 ■ ALTの参画 □ ICTの活用 □ AIの活用 □ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合が、前年度よりも向上した。

(R5:28.8% ⇒ R6:36.8%)

②「授業中、生徒の言語活動の割合が50%以上行われている」の割合が、6割以上となった。※本市独自調査より (R5:56.3% ⇒ R6:63.0%)

未だ改善が必要な点

① 中学3年生の求められる英語力について、CEFR A1レベル相当と判断できる生徒が今年度は40.3%にとどまり、昨年度より減少した。

(R5:56.1% ⇒ R6:40.3%)

※本市で毎年実施している『英検IBAテスト(中3)』の結果において、CEFR A1レベル相当の生徒は、約47%だった。

2. 要因分析

①各種研修により、教員の英語力向上への取組が高まったと見られる。

①英検IBAの結果分析を通して、教員が授業を振り返り、質の高い英語指導につながったと見られる。

②英語教員への研修を通して、授業改善の意識が高まり、IBAの結果を動画で周知する等、年間を通して授業改善と言語活動の重要性を指導・助言してきたことが要因だと考える。

①授業改善を図り、言語活動の充実がなされる中、「聞くこと」「話すこと」の活動は充実している一方で、「読むこと」「書くこと」への活動が不足した面がある。特にまとまりのある文章を読み、内容をとらえる力が低い傾向にある。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②各種研修の充実
・中学校の教員を対象としたパワーアップイングリッシュセミナーの実施
・教科指導力向上支援事業を活用
・研究員活動の成果を学校への情報提供
・IBAテスト結果分析の周知（動画配信）
・授業改善にむけたALT対象の研修の実施

②ALTの活用
・授業でのALTの活用の促進
・ALTを活用したスピーキングテストや交流会の実施
・長期休暇における英語で交流する体験的学習の実施（イングリッシュデイ）

①各種研修の実施
・パワーアップイングリッシュセミナーの実施
→生徒の英語力把握及び具体的な手立ての提示
→5領域のバランスを考えた指導確認
・教育センターによる授業づくり支援事業（学校訪問、ステップアップサポートによる支援など）
・研究員活動の成果を学校への情報提供

令和7年度 熊本市 英語教育改善プラン

目標 CEFR A2相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合を上昇させる

- CEFR A2レベル相当以上の英語力を習得又は有すると思われる生徒の割合（R6: A2以上50.0% ⇒ R7: A2以上60%）
○CEFR B1レベル相当以上の英語力を習得又は有すると思われる生徒の割合（R6: B1以上10.2% ⇒ R7: B1以上20%）

目標

- 言語活動 □ 指導と評価の一体化 □ 教師の英語力・指導力 □ 校種間連携 ■ ALTの参画 □ ICTの活用 □ AIの活用 □ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①高校3年生の求められる英語力について、CEFR A2レベル相当と判断できる生徒が50.0%となり、昨年と比べて増加した。
(R5:41.9%⇒R6:50.0%)

未だ改善が必要な点

①高校3年生の求められるCEFR B1相当以上の英語力を有する生徒が10.2%となり、昨年と比べて減少している。
(R5:18.7%⇒R6:10.2%)

2. 要因分析

①英語教員を対象とした中高合同の研修会や校内研修の充実により、教師の授業改善が推進され、結果生徒の英語力の向上につながったものと考えられる。

①英語を使用する場面が言語材料についての理解にとどまり、生徒が既習の言語材料を活用する場面が少ない。
①ALTが授業に参画しているが、生徒がALTに向けて英語力を発揮する場面が少ない。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②各種研修の充実
- ・パワーアップイングリッシュセミナーの実施
 - ・教科指導力向上支援事業を活用
 - ・教育センターによる授業づくり支援事業（学校訪問、ステップアップサポートによる支援など）
 - ・教員の英語力についての目標を提示
 - ・夏季研修会（高校）を実施
 - ・ワークショップ・授業研究会の実施、トークルームの実施
- ①ALTの活用
- ・授業でのALTの活用の促進
 - ・ALTを活用したスピーキングテストや交流会の実施
- ①各種研修の実施
- ・パワーアップイングリッシュセミナーの実施
→生徒の英語力把握及び具体的な手立ての提示
→生徒の英語力に関する目標の提示
 - ・教科指導力向上支援事業を活用
 - ・教育センターによる授業づくり支援事業（学校訪問、ステップアップサポートによる支援など）
- ①ALTの活用
- ・ALTを活用した定期的なスピーキングテストの実施
 - ・ALT対象の研修実施

熊本市教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	41.9	50	50	60		60		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		10	18.7	20	10.2	20		25		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		60	20	60	83.3	100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		60	26.7	100	41.7	100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	33.3	100		100		100		100	
		公表（％）	100	0	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	33.3	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		75	100	80	100	80		80		80	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		40	64.3	60	66.7	100		100		100	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		60	56.1	60	40.3	60		60		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		80	56.3	70		70		80		80	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		90	76.2	90		90		90		90	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	97.6	100		100		100		100	
		公表（％）	100	71.4	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	73.8	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50	28.8	40	36.8	50		50		50	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		80	57.9	70		70		80		80	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	85.9	100		100		100		100	
		公表（％）	100	69.6	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	77.2	100		100		100		100	